

速報

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

新基地許さない

調査再開後初の集会



県民集会でシユプレヒコールを上げ、新基地建設に抗議する市民ら。21日午後1時5分、名護市の瀬嵩の浜

【辺野古問題取材班】米軍普天間飛行場の移設に伴う名護市辺野古への新基地建設に反対しようと、県選出・出身野党国会議員や県議会与党5会派などをつくる「止めよう辺野古新基地建設実行委員会」は21日午後1時から、名護市瀬嵩の浜で県民集会を開催した。新基地建設予定地周辺での大規模集会は、政府が海底ボーリング調査に着手した2014年8月、同9月、ことし2月に続き4回目で、瀬嵩の浜では初めて。政府が12日、辺野古沖で海底ボーリング調査を再開して以降、最初の県民集会となる。翁長雄志県知事の代理として安慶田光男副知事が登壇した。翁長県政が誕生して以来、県三役が県民集会に参加するのは初めて。

瀬嵩の浜には午後1時まで約2千人が集まった。登壇者らが平和の象徴のハトを放ち開会。共同代表の照屋寛徳衆院議員が「新基地建設は母なる海を壊しウチナンチュの尊厳を大きく毀損する。断じて許すわけにはいかない。自信を持って闘おう」とあいさつした。

集会は県が中断を求めているにもかかわらず、ボーリング調査を再開させたことに對し、あらためて移設反対の民意を示すことが狙い。参加者は「県民の意向を無視した作業強行は許さない」「海上作業は中止しろ」などと怒りの拳を上げた。

県民集会に先立ち、大浦湾では午前10時から海上行動が行われた。市民らは抗議船で名護市の汀間漁港を出港。海上でシユプレヒコールを上げた。午後1時からは新基地建設に反対する漁民らが船で抗議のパレードを行った。

ボーリング調査に抗議する県議らの船に乗り込む海保職員ら＝21日午前10時17分ごろ、名護市の大浦湾



国強権に続く抗議

続々と県民集会の会場に集まる参加者ら＝21日午前11時40分ごろ、名護市瀬高



ゲート前で抗議の声を上げる市民ら＝21日午前10時30分すぎ、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブ



合唱して、団結を誓い合う市民ら＝21日午前10時20分すぎ、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前



掘削棒を海底に下ろしているスパット台船＝21日午前10時50分すぎ、名護市の大浦湾